

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慈愛の心 尊厳を守る 優しくをモットーに取り組んでいる	○	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議及び日常生活の中で、出来事を取り上げ、具体的に話をしている	○	
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書・契約書に具体化し、入居者家族に説明している	○	
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中の近隣者へのあいさつ等、努めている	○	明るく朗らかな笑顔で、元気良くあいさつをする事で、近隣者に元気を与える様心がける
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域文化祭行事への参加、作品展示などを行っている	○	ホームだよりなどの作成準備中
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの具体的作業や本質が、行政・社会・利用者家族に明確にできるように努めている	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に向け、これらのサービスの一つひとつが実践できているか、また改善できているか、改善の必要があるのかを点検する	○	改善の点検した結果を運営推進会議の場で公表し評価してもらおう
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの実際と評価をいただき、サービス向上に活かしている	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、保険者として調査(12月頃)にも入る予定である	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学習した内容を、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	○	会議等で研修内容を提供して、職員に学ぶ機会を増やす様努める
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底の為、職員や入居者から目を離さないよう努めている	○	どんな小さな出来事でも虐待に繋がるかもしれないので、報告・連絡・相談を気軽に出来る環境を作る
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等には傾聴をおこない、十分な説明をていねいに理解できるようにしている	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱等を設置し苦情や不満を受けとめ ている	○	
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	運営推進会議の議事録や電話等により報告 している	○	
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かお気づきの点がありましたら、お聞か せ下さいとおうかがいしている	○	家族の中には、気になる事も話されない方 もおられるので、職員との何気ない会話の 中で、不満、苦情等があれば聞きだす
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	日常生活の中で、具体的に提案を聞かせて もらっている	○	
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	柔軟な対応ができるよう話し合いや勤務調 整に努めている	○	
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つことを重視し、ケアの 継続のための配慮を欠かさないように努め ている	○	職員の異動等による引継ぎは、出来るだけ 素早く漏れない様に努める

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	誰もが安心して働ける職員環境を目指し、個性の尊重と人材育成に努めている	○	
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	チームの一員として研修・会議等には参加の機会をつくる。又研修内容を報告する機会をつくっている	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症対応共同生活介護実践研修を受けた後、介護福祉士の受験勉強できるよう応援している	○	研修終了後、報告書等にて、情報を共有する
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者の「食」と「排泄」に関する直鞍勉強会会長 やすらぎ園施設長 小西重信氏の研修会や褥瘡ケアセミナー等、新しい褥瘡の考え方と治療等、同業者との交流を持たせていただいている	○	同業者との交流後、報告書等にて、情報を共有する
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者・職員の話聞き、ストレスや背景を理解している	○	
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実践等、職員の健康を保つための対応をしています	○	健康診断以外にも、風邪などの感染疾患になった場合は、マスクや手洗いの励行に努める

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の状況を把握することによって、信頼関係を作ることに努めている	○	傾聴を心がけ、不信感を与えないように努める
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にとって今何に困っているか、即時的なニーズが何なのか等話を十分に聞いています	○	本人同様、家族にも傾聴を心がける
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すべてのニーズを抱え込むのではなく、必要に応じ、他のサービス機関につなげていく努力をしている	○	優先順位を明確にする様努める
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅⇒デイケア⇒特養ショート⇒グループホーム入居へと移動した例もあります	○	入居するまで人間関係を築きながら徐々に利用の幅を広げていきます
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の介護をする生活内では、入居者から育ててもらってる部分もあり感謝している	○	入居者は、「人生の先輩である事、教えてもらっている」という感謝の念を持つ
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていける人間関係を目指している	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は裏方に回り、家族と本人の絆を大切に、家族の役割を奪わないような配慮をしています	○	
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービスを利用することで、本人を取り巻く人や支えてきた人たちとの関係が途切れないような配慮を心がけている	○	面会簿等を活用し、入居者との関係維持に努める
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	世話役の人にもうまく発揮してもらい、他の入居者の気持を引き上げてくれる場面を作る等、入居者同志の関係や力、個性をうまく活かす配慮をしています	○	入居者同志の何気ない会話の中にトラブル等の問題がないか確認する
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスを利用しなくなっても、地域住民として遊びに来てもらったり場合によっては、関係を大切にしたいと思って、取り組んでいきたいと思っています	○	
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢者の訴えの中に両親に会いたいという場面もあり、甥の面会時その思いを伝え、行動や表情から汲み取り少しでも近づけたらと努めています	○	
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、情報を伝えてもらいそれらを蓄積しながら本人の全体像を知る取り組みをしたいと考え努力している		



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「できない」という情報にとらわれず、できること・分かる力を本人の生活や全体像から把握できるよう介護させていただいている	○	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映した、介護計画になるように努力しています		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した見直し 話し合いに基づく臨機応変な見直し新たな要望や変化が見られない		場合の見直しも大切と思い調整中です
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者とケアの個別状況や、ケアをしながらの職員の気づきや工夫を記入するように		現在調整中です
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避・早期退院の支援・医療処置を受けながら生活の継続・重度化した場合の入院の回避に努めている	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続していくために、本人の関係のあるボランティア・個人または団体や民生委員等の存在を把握し協働している	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	通い慣れた美容院にて、パーマメントをかけたという要望を家族により実現されている	○	
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげています	○	
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの入居前の受診の経過・現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援はできている	○	医療機関への受診は家族に同行をしてもらっているが、緊急等やむおえない場合は、職員（看護師）が同行して支援をしている
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き、日常の入居者を通して適切な指示や助言をしてくれる医師を地域の中で確保している	○	報告・連絡・相談の徹底
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の持病や、普段の状態をよく知っている看護師を確保している。24時間気軽に相談可能です	○	医師（夜間）にも連絡可能です
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談に努めている	○	



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についてできるだけ早い段階から本人や家族と話している	○	
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、日々をよりよく暮らせる為、かかりつけ医等と共にチームとしての支援に取り組んでいる	○	
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや十分な情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るため個人の誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底している	○	秘守義務を徹底する
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者と過ごす時間を通して入居者の希望・関心・嗜好を見極めそれをもとに日常の中で本人が選びやすい場面作りをしています	○	傾聴を心がけ、入居者が何を求めているか見極める
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が、主人公となって暮らせるように支援しています	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人のこだわりと、生活の継続性を保つため、本人おなじみの床屋（美容室）での美容を支援しています	○	入居者と家族で日程を話し合い、美容室に行ってもらった
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから調理・片付けに至るまで食事一連の流れをできる場所は入居者にさせていただくように努めている	○	入居者の嚥下能力や、義歯の有無等を考慮して献立の工夫をしている
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を取り入れることにより、本人以外に入居者に迷惑がかからないように十分配慮しています	○	
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗しても極力本人が傷つかないように手早く周囲に気づかれない等の配慮しながら対応しています	○	周囲に気づかれた場合にも、上手に話をそらしながら対応している
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の生活習慣や希望に合わせて、入浴できるよう職員ローテーションの工夫できるように務めます	○	
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れの中、個々のリズムに合わせて環境や生活の過ごし方を検討しながら支援していく	○	日中は出来るだけ起こして、昼夜逆転しないよう努めている

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割については全員とはいかないが、リビング等の掃き掃除または、食事の配膳などを行っていただいています 楽しみ、気晴らしは、苑内散歩・昼食もテラスで食べています	○	役割、楽しみごと、本人の気持ちや力を活かした場面づくりの支援を行っていただけるよう努力します
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員ではないが、出来る人に対しておこずかい程度は所持していただいています	○	
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	AM9:00頃より散歩を行っている	○	
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出等、家族とも相談しながら行けるよう努力します (バスハイク・花見・ショッピングなど)	○	
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい入居者に対する支援は、できるかぎり行っています	○	
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や本人の馴染みの人たちが訪問したとき、自然な形で歓迎しています	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって、利用者が受ける身体的・精神的へい害について理解し拘束のないケアをしています	○	身体拘束等のケアを職場内研修等で、学習し徹底している
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないですむ工夫に取り組んでいます	○	出入り口のセンサーの活用や、入居者・職員同士の報告・連絡等で事故防止をしている
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者を見守りやすい位置にいて、利用者の状況を確認しやすい位置にいます	○	入居者による、報告・連絡も安全の配慮には必要な場合もある
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせて注意の必要な物品は何か職員で把握し、管理方法を決めている	○	認知症の入居者など特に注意して管理している(日頃の行動観察)
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や火災等を未然に防ぐ為の方策や、一人ひとりの考えられるリスクや危険を検討し、事故防止に努めている	○	検討した情報を共有している
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが・骨折・発作・のど詰まり・意識不明等の対処方法・救急救命法等の学習や訓練を定期的に行っています。夜間等、人手が少ないときの応急手当からその後の連絡対応方法等について職員は身につけています	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一人ひとりの利用者の状況を踏まえて、昼夜を通じた災害時の具体的な避難策について検討し、慌てず確実な避難誘導ができるよう備えている	○	
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに予測されるリスクを家族等と率直に話し合い、抑圧感のない暮らしの支援をさせていただいています	○	
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりに普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めています。異常に気付いたら速やかに報告し早期対応に結びつけています	○	入居者同士の報告・連絡・相談も早期対応に有効な為、活用している
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	治療や服薬調整の参考資料となるよう本人の状態の経過や変化等に関する日常の記録を医療者に情報提供しています	○	処方箋の内容等をファイリングして、共有している
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの1日に暮らし全体の中で、食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしています	○	献立等に排便を促す食物を多く取り入れてもらったり、食べやすい様な調理の工夫をしている
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つ為、食後のうがいや口の中の手入れの支援を個別にしています	○	歯科検診を活用して、義歯の噛み合せや口腔状況を診察してもらう

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりが暮らし全体を通し、必要な食事や水分が取れるように支援しています	○	栄養士に献立表を点検してもらっています
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいて、勉強会や訓練が行われています。季節、地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応しています	○	職員・入居者にも手洗いやうがいの徹底に努めている
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用が望ましいため、食材が古くならず無駄なく使用できるような工夫を行っています	○	出来るだけ、食材を加熱して調理する様心がける
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者にとって安堵感を持ってもらうように入居者や家族等、地域の人達、散歩の途中に腰を休められるような配慮をしています	○	
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は安らぎ居心地よく過ごせるように、自分の力でその人らしく過ごせる場となるような工夫と配慮をしています	○	転倒の原因となるような物は置かない様にする
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性等に配慮した居場所づくりや環境づくりを心がけています	○	



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋になっています。居心地よく、プライバシーを大切に安心して過ごすための環境づくりの工夫をしています	○	
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一人ひとりの状態は反応を見ながらできるだけ自然環境に近い換気、空調の管理に心遣いしています	○	朝食後は、窓を開けて空気の入れ替えを行う
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険の防止や、自分の力を活かして動けることを支えるための個別の道具の工夫がなされている	○	
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握し、必要なものを見極めながら、馴染みの物を活かすように努めています	○	
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	身体機能の低下に伴い、日常的な外出が困難になった入居者に、外気浴や飲茶等楽しむよう努めている	○	天気の良い日の昼食はテラスで食べたりしている

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症により自立した生活が困難になった入居者に対して、家庭的な環境のもとで食事・入浴・排泄等の日常生活の中で心身の機能訓練を行う事により、安心と尊厳のある生活をその入居者がその有する能力に応じ、可能な限り営む事が出来るよう支援していきます

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慈愛の心 尊厳を守る 優しくをモットーに取り組んでいる	○	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議及び日常生活の中で、出来事を取り上げ、具体的に話をしている	○	
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	重要事項説明書・契約書に具体化し、入居者家族に説明している	○	
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中の近隣者へのあいさつ等、努めている	○	明るく朗らかな笑顔で、元気良くあいさつをする事で、近隣者に元気を与える様心がける
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域文化祭行事への参加、作品展示などを行っている	○	ホームだよりなどの作成準備中
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームの具体的作業や本質が、行政・社会・利用者家族に明確にできるように努めている	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に向け、これらのサービスの一つひとつが実践できているか、また改善できているか、改善の必要があるのかを点検する	○	改善の点検した結果を運営推進会議の場で公表し評価してもらおう
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの実際と評価をいただき、サービス向上に活かしている	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、保険者として調査(12月頃)にも入る予定である	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学習した内容を、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	○	会議等で研修内容を提供して、職員に学ぶ機会を増やす様努める
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底の為、職員や入居者から目を離さないよう努めている	○	どんな小さな出来事でも虐待に繋がるかもしれないので、報告・連絡・相談を気軽に出来る環境を作る
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等には傾聴をおこない、十分な説明をていねいに理解できるようにしている	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱等を設置し苦情や不満を受けとめ ている	○	
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	運営推進会議の議事録や電話等により報告 している	○	
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かお気づきの点がありましたら、お聞か せ下さいとおうかがいしている	○	家族の中には、気になる事も話されない方 もおられるので、職員との何気ない会話の 中で、不満、苦情等があれば聞きだす
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	日常生活の中で、具体的に提案を聞かせて もらっている	○	
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	柔軟な対応ができるよう話し合いや勤務調 整に努めている	○	
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つことを重視し、ケアの 継続のための配慮を欠かさないように努め ている	○	職員の異動等による引継ぎは、出来るだけ 素早く漏れのない様に努める



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	誰もが安心して働ける職員環境を目指し、個性の尊重と人材育成に努めている	○	
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	チームの一員として研修・会議等には参加の機会をつくる。又研修内容を報告する機会をつくっている	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症対応共同生活介護実践研修を受けた後、介護福祉士の受験勉強できるよう応援している	○	研修終了後、報告書等にて、情報を共有する
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者の「食」と「排泄」に関する直鞍勉強会会長 やすらぎ園施設長 小西重信氏の研修会や褥瘡ケアセミナー等、新しい褥瘡の考え方と治療等、同業者との交流を持たせていただいている	○	同業者との交流後、報告書等にて、情報を共有する
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者・職員の話聞き、ストレスや背景を理解している	○	
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実践等、職員の健康を保つための対応をしています	○	健康診断以外にも、風邪などの感染疾患になった場合は、マスクや手洗いの励行に努める

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の状況を把握することによって、信頼関係を作ることに努めている	○	傾聴を心がけ、不信感を与えないように努める
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にとって今何に困っているか、即時的なニーズが何なのか等話を十分に聞いています	○	本人同様、家族にも傾聴を心がける
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すべてのニーズを抱え込むのではなく、必要に応じ、他のサービス機関につなげていく努力をしている	○	優先順位を明確にする様努める
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅⇒デイケア⇒特養ショート⇒グループホーム入居へと移動した例もあります	○	入居するまで人間関係を築きながら徐々に利用の幅を広げていきます
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の介護をする生活内では、入居者から育ててもらってる部分もあり感謝している	○	入居者は、「人生の先輩である事、教えてもらっている」という感謝の念を持つ
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支える姿勢で、一緒に考えていける人間関係を目指している	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は裏方に回り、家族と本人の絆を大切に、家族の役割を奪わないような配慮をしています	○	
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービスを利用することで、本人を取り巻く人や支えてきた人たちとの関係が途切れないような配慮を心がけている	○	面会簿等を活用し、入居者との関係維持に努める
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	世話役の人によく発揮してもらい、他の入居者の気持を引き上げてくれる場面を作る等、入居者同志の関係や力、個性をうまく活かす配慮をしています	○	入居者同志の何気ない会話の中にトラブル等の問題がないか確認する
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスを利用しなくなっても、地域住民として遊びに来てもらったり場合によっては、関係を大切にしたいと思って、取り組んでいきたいと思っています	○	
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢者の訴えの中に両親に会いたいという場面もあり、甥の面会時その思いを伝え、行動や表情から汲み取り少しでも近づけたらと努めています	○	
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に本人のバックグラウンドに関する情報の大切さを伝え、情報を伝えてもらいそれらを蓄積しながら本人の全体像を知る取り組みをしたいと考え努力している		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「できない」という情報にとらわれず、できること・分かる力を本人の生活や全体像から把握できるよう介護させていただいている	○	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映した、介護計画になるように努力しています		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した見直し 話し合いに基づく臨機応変な見直し新たな要望や変化が見られない		場合の見直しも大切と思い調整中です
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者とケアの個別状況や、ケアをしながらの職員の気づきや工夫を記入するように		現在調整中です
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避・早期退院の支援・医療処置を受けながら生活の継続・重度化した場合の入院の回避に努めている	○	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域生活を継続していくために、本人の関係のあるボランティア・個人または団体や民生委員等の存在を把握し協働している	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	通い慣れた美容院にて、パーマメントをかけたという要望を家族により実現されている	○	
44	—	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげています	○	
45	21	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの入居前の受診の経過・現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診の支援はできている	○	医療機関への受診は家族に同行をしてもらっているが、緊急等やむおえない場合は、職員（看護師）が同行して支援をしている
46	—	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き、日常の入居者を通して適切な指示や助言をしてくれる医師を地域の中で確保している	○	報告・連絡・相談の徹底
47	—	○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の持病や、普段の状態をよく知っている看護師を確保している。24時間気軽に相談可能です	○	医師（夜間）にも連絡可能です
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談に努めている	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についてできるだけ早い段階から本人や家族と話している	○	
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、日々をよりよく暮らせる為、かかりつけ医等と共にチームとしての支援に取り組んでいる	○	
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや十分な情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守るため個人の誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底している	○	秘守義務を徹底する
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者と過ごす時間を通して入居者の希望・関心・嗜好を見極めそれをもとに日常の中で本人が選びやすい場面作りをしています	○	傾聴を心がけ、入居者が何を求めているか見極める
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が、主人公となって暮らせるように支援しています	○	



項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人のこだわりと、生活の継続性を保つため、本人おなじみの床屋（美容室）での美容を支援しています	○	入居者と家族で日程を話し合い、美容室に行ってもらった
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから調理・片付けに至るまで食事一連の流れをできる場所は入居者にさせていただくように努めている	○	入居者の嚥下能力や、義歯の有無等を考慮して献立の工夫をしている
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を取り入れることにより、本人以外に入居者に迷惑がかからないように十分配慮しています	○	
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗しても極力本人が傷つかないように手早く周囲に気づかれない等の配慮しながら対応しています	○	周囲に気づかれた場合にも、上手に話をそらしながら対応している
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の生活習慣や希望に合わせて、入浴できるよう職員ローテーションの工夫できるように努めます	○	
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れの中、個々のリズムに合わせて環境や生活の過ごし方を検討しながら支援していく	○	日中は出来るだけ起こして、昼夜逆転しないよう努めている

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割については全員とはいかないが、リビング等の掃き掃除または、食事の配膳などを行っていただいています 楽しみ、気晴らしは、苑内散歩・昼食もテラスで食べています	○	役割、楽しみごと、本人の気持ちや力を活かした場面づくりの支援を行っていただけるよう努力します
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員ではないが、出来る人に対しておこずかい程度は所持していただいています	○	
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	AM9:00頃より散歩を行っている	○	
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない場所への外出等、家族とも相談しながら行けるよう努力します (バスハイク・花見・ショッピングなど)	○	
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい入居者に対しての支援は、できるかぎり行っています	○	
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や本人の馴染みの人たちが訪問したとき、自然な形で歓迎しています	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって、利用者が受ける身体的・精神的へい害について理解し拘束のないケアをしています	○	身体拘束等のケアを職場内研修等で、学習し徹底している
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないですむ工夫に取り組んでいます	○	出入り口のセンサーの活用や、入居者・職員同士の報告・連絡等で事故防止をしている
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が入居者を見守りやすい位置にいて、利用者の状況を確認しやすい位置にいます	○	入居者による、報告・連絡も安全の配慮には必要な場合もある
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせて注意の必要な物品は何か職員で把握し、管理方法を決めている	○	認知症の入居者など特に注意して管理している(日頃の行動観察)
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や火災等を未然に防ぐ為の方策や、一人ひとりの考えられるリスクや危険を検討し、事故防止に努めている	○	検討した情報を共有している
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが・骨折・発作・のど詰まり・意識不明等の対処方法・救急救命法等の学習や訓練を定期的に行っています。夜間等、人手が少ないときの応急手当からその後の連絡対応方法等について職員は身につけています	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一人ひとりの利用者の状況を踏まえて、昼夜を通じた災害時の具体的な避難策について検討し、慌てず確実な避難誘導ができるよう備えている	○	
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに予測されるリスクを家族等と率直に話し合い、抑圧感のない暮らしの支援をさせていただいています	○	
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりに普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めています。異常に気付いたら速やかに報告し早期対応に結びつけています	○	入居者同士の報告・連絡・相談も早期対応に有効な為、活用している
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	治療や服薬調整の参考資料となるよう本人の状態の経過や変化等に関する日常の記録を医療者に情報提供しています	○	処方箋の内容等をファイリングして、共有している
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの1日に暮らし全体の中で、食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしています	○	献立等に排便を促す食物を多く取り入れてもらったり、食べやすい様な調理の工夫をしている
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つ為、食後のうがいや口の中の手入れの支援を個別にしています	○	歯科検診を活用して、義歯の噛み合せや口腔状況を診察してもらう

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりが暮らし全体を通し、必要な食事や水分が取れるように支援しています	○	栄養士に献立表を点検してもらっています
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいて、勉強会や訓練が行われています。季節、地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応しています	○	職員・入居者にも手洗いやうがいの徹底に努めている
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用が望ましいため、食材が古くならず無駄なく使用できるような工夫を行っています	○	出来るだけ、食材を加熱して調理する様心がける
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者にとって安堵感を持ってもらうように入居者や家族等、地域の人達、散歩の途中に腰を休められるような配慮をしています	○	
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は安らぎ居心地よく過ごせるように、自分の力でその人らしく過ごせる場となるような工夫と配慮をしています	○	転倒の原因となるような物は置かない様にする
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性等に配慮した居場所づくりや環境づくりを心がけています	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋になっています。居心地よく、プライバシーを大切に安心して過ごすための環境づくりの工夫をしています	○	
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一人ひとりの状態は反応を見ながらできるだけ自然環境に近い換気、空調の管理に心遣いしています	○	朝食後は、窓を開けて空気の入れ替えを行う
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険の防止や、自分の力を活かして動けることを支えるための個別の道具の工夫がなされている	○	
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握し、必要なものを見極めながら、馴染みの物を活かすように努めています	○	
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	身体機能の低下に伴い、日常的な外出が困難になった入居者に、外気浴や飲茶等楽しむよう努めている	○	天気の良い日の昼食はテラスで食べたりしている



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症により自立した生活が困難になった入居者に対して、家庭的な環境のもとで食事・入浴・排泄等の日常生活の中で心身の機能訓練を行う事により、安心と尊厳のある生活をその入居者がその有する能力に応じ、可能な限り営む事が出来るよう支援してまいります